

2009年12月11日
茨城支所 萩野

H21年度電気学会東京支部茨城支所 第2回講演会活動報告

茨城支所では前回に引き続き「超微小な世界に挑む観測技術」をテーマとし、平成21年度第2回講演会を開催した。今回は、昨年的小林先生・益川先生のノーベル賞受賞を支えた高エネルギー加速器研究機構（KEK）のBファクトリー実験において、加速器の計画段階から開発、運用立ち上げまでの14年間、ビームモニタグループの開発責任者として、ビーム計測技術開発を主導されてこられた平松成範氏に講演いただいた。講演会では、ビームモニタ装置の概要から要素技術、ビームフィードバック制御技術などについて、実際の実験装置にまつわるトピックスなどを交えながらわかりやすく説明いただいた。また、会場には40名近い聴講者が集まり、講演後には活発な質疑応答もあり、有意義な講演会となった。

1. 開催日時 2009年12月11日(金) 15:00～17:00
2. 会場 茨城大学工学部 総合研究棟8階 イノベーションルーム
3. 講師 平松 成範 氏（高エネルギー加速器研究機構）
4. 聴講者数 37名
5. 演題 「KEK B - ファクトリーにおける
電子・陽電子衝突型貯蔵リングのビーム診断装置」



講演会の様子